

用語解説

- 赤玉土・・・関東ローム層等の赤土から作られた、無機質で粒状の土。
- 移植（苗）・・・ 稚苗や1年生苗（原苗）を移植する方法。
- 萎凋・・・ 土壌水分の減少に伴い、植物がしおれること。なお、水分を与えないと、しおれが回復しない程度に至った状態を、「萎凋点」という。
- 一貫作業システム・・・ 伐採と並行、または連続して一体的に地拵えや植栽を行うこと。
- 一貫施業・・・ 一貫作業システムのこと。
- Mスターコンテナ・・・ 宮崎県林業技術センターが開発した、段ボール状のシート。
- エリートツリー・・・ 「第二世代精英樹」のこと。
- 鹿沼土・・・ 栃木県鹿沼市産出の「軽石」の総称。
- 緩効性肥料・・・ 肥料の効果（肥効）がゆっくり現れる形態の肥料。これに対して肥効がすぐに現れる「速効性肥料」がある。
- 寒冷紗・・・ 植物を覆って保護する「被覆資材」の一つ。一般に、夏の高温や日差しを防ぐほか、防寒、防風、防虫等の目的で使用される。
- キャビティ・・・ トレイ内複数設けられた育成孔（穴）のこと。
- 空中根切り・・・ 根が空中に突出すると成長が止まる現象。根が回り込まず、まっすぐ成長する。
- 毛苗・・・ 発芽間もない稚苗（本葉が展開していない状態の苗）。
- 原苗・・・ 播種後、秋以降、最終的に成長休止した段階で得られる当年生（1年生）苗。
- ココナツハスク・・・ ココナツの外層にある殻から作られ、長いスポンジのような随の粒子で構成されたもの。
- ココピート・・・ ココヤシのハスク（中果皮）を原料として、0.1～10mmに粉碎した粒を利用した有機培地。
- ココピートオールド・・・ ココナツ繊維を40～70年ほど自然発酵させた天然資源であり、ピートモスに代わる土壌改良剤。
- コンテナ苗・・・ 容器によって育成した根鉢付き苗。苗畑で育てる裸苗に比べて育て方によっては育苗期間が短くできる。
- 採種園・・・ 種子生産を目的として造成された圃場。
- 挿し木・・・ 枝の一部を培地に挿して発根させ、個体数を増やす苗木の生産方法。
- 種苗・・・ 林業用に供される樹木の繁殖用種子、穂木、茎、根及び苗木（幼苗を含む）であって、政令で定める樹種に係るものをいう。
- 少花粉（スギ等）・・・ 従来品種（精英樹）に比べ、雄花の着花量が極めて少ない（スギの場合1%以下）品種。

- 水平根・・・・・・・・・・(サイドスリット方式において) 側面方向に発生する根。
- スリット・・・・・・・・・・キャビティに内に設けられた、縦筋状の隙間(空間)。リブと同様、根巻き防止になる。
- ゼオライト・・・・・・・・・・「沸石」とも呼ばれる、多孔質の天然鉱物。
- セルトレイ・・・・・・・・・・小さい、くさび状のポットが連結して並んでいる育苗パネルのこと。このトレイを用いて生産した苗のことを「セル苗(セル成型苗)」という。
- 第二世代精英樹・・・・・・・・・・成長や材質等の形質が良い精英樹同士の人工交配により、得られた次世代の個体から選抜される、成長等が優れた精英樹のこと「エリートツリー」ともいう。
- 多粒播種・・・・・・・・・・一つのキャビティに対し、複数の種子を播くこと。
- 直接播種(苗)・・・・・・・・・・キャビティに種子を直接播く方法。これに対し、稚苗や1年生苗(原苗)を移植する方法がある。
- 追肥・・・・・・・・・・作物の養分不足を補うため、生育途中で行う施肥のこと。
- 特定母樹・・・・・・・・・・成長量が同様の環境下の対照個体と比較して、おおむね1.5倍以上、雄花着生性が一般的なスギ・ヒノキのおおむね半分以下等の基準を満たすもの。
- トレイ・・・・・・・・・・マルチキャビティコンテナ(連結した容器)のこと。
- ナノバブル・・・・・・・・・・直径が数十~数百ナノメートルの非常に小さい気泡のこと(1ナノメートルは1メートルの10億分の1)。植物の成長促進効果(葉緑素の増加等)が期待される一方で、作物の品目や地域の水質によって効果が異なることが指摘されている。
- 根鉢・・・・・・・・・・コンテナ苗の地下(根)部分。容器の形状に合わせ、根と培地が一体化したもの。
- バーク堆肥・・・・・・・・・・樹皮を発酵させて作った有機質肥料。
- バーミキュライト・・・・・・・・・・酸化ケイ素、酸化マグネシウム、酸化アルミニウムを主成分とする鉱物。「蛭石(ひるいし)」とも呼ばれる。
- パーライト・・・・・・・・・・火山岩として産出されるパーライト原石や珪藻土等を高温で熱処理してできる人工発泡体。
- 培地・・・・・・・・・・コンテナ苗養成用として使用する培土。
- 発芽率・・・・・・・・・・播種数に対し、実際に発芽した本数の割合。
- ピートモス・・・・・・・・・・水苔やシダ類が堆積されてできた強酸性用土。
- 肥効調整型肥料・・・・・・・・・・肥料表面をコーティングすることにより、肥効を遅らせる等、処理を施した肥料(緩効性肥料)等のこと。
- 普通苗・・・・・・・・・・苗畑で2年間育成された苗。苗の地下部(根)が大きいのが特徴。

- 分生子・・・・・・・・・・アオカビ・コウジカビなどの菌類で、菌糸から出た柄の先にできる無性的な孢子。
- マサ土・・・・・・・・・・花崗岩が風化してできた砂状の土壌。
- 実生・・・・・・・・・・種子から発芽して成長した植物のこと。また、そのようにして苗（木）を生産する方法（実生苗）。
- 山行苗規格・・・・・・・・・・現地（山林）へ植栽する際の苗規格。
- 葉食害虫・・・・・・・・・・ケムシ等の葉を食する害虫。
- 溶存酸素濃度・・・・・・・・・・水中に溶解している酸素濃度。単位容積当たりの水に溶解している O_2 量 (mg/l) で表す。
- リブ・・・・・・・・・・根巻き防止のため、キャビティ内側に設けられた、縦筋状の突起。
- 林業種苗法・・・・・・・・・・種苗について優良な採取源の指定、生産の事業を行う者の登録や配布の際の表示の適正化等に関する措置を定めた法律。